たぶん人間じゃないと思う

彦星こかぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
たぶん人間じゃないと思う

【Ｎコード】
Ｎ８３７８Ｅ

【作者名】
彦星こかぎ

【あらすじ】
優しくて調子がよくてちょっと得体の知れない彼を持つ、大人しくてオタク気味で気の強い女の子。奇妙で普通な日々の掌編。

［1］朝（前書き）

決して純愛小説ではありません。
そのため、一部に不純な連想を招く描写があります。
気にするほどではないと思いますが、一応注意してください。

［1］朝

［1］

起きようって言ったのにまだ寝てた。
先に起きてもまだ寝てた。
着替えてきても布団の中にいた。ひょっとして死んでるんじゃないかと思ってカーテンを思い切り開けたら、顔をじたばたさせて嫌がった。
「ぎゃー、溶けるー」
可愛くもないのに臆面もなく言う。
たぶん実は吸血鬼で、日頃は大丈夫なくらいに訓練してあるのだけれど直射は辛いんだろう。参ったな、こっちは晴れてないと元気が出ない人間なのに。
朝の光は気持いい。髪の毛が乾いて浮き上がるのも、家の中ならそんなに悪くない。

たっぷり光合成を済ませて振り返ったら、布団の上には薄い色の灰が散らばっていた。
触れてみると微かに温かくて、吸い付くように肌となじんだ。
雨が降ればよかったのに。大嫌いな雨が降って部屋が薄暗いままだったら、ずっとずっと一緒に眠っていられたのに。

「そんなこと想像したんだ」
「うん」
「それ朝御飯？」
「うん」
起きてきた。
「そうだねー、雨が降ってたら起きられなかったかもね」

「髪の毛すごい事になってるよ」
「起きさせなかったかもね」
そんな事言いながら、動かないで髪を梳かされている。
この吸血鬼は、朝になると灰よりも大人しくなる。

［1］朝（後書き）

今まで書いたことのないものを書きたくなりました。

［2］夜半　／　［3］夜中（前書き）

短いので二つ一気に出します。

［2］夜半　／　［3］夜中

［2］

思ったよりも用事が早く終わったので、早めに押しかけた。
顔を見るなり焦った顔をする。
「待って！　片付けてないから待って！」
外で待つ。遅い。
きっと本当は宇宙人で、人がいないときの部屋は本当に居心地がいいように改造されているんだろう。それか、地球の生命体を調査するための器具を並べているか。様々な手段で生物を入手し、日夜研究にいそしんでいるのである。地球の科学では決して実現できないような装置を、今しもあの宇宙人は襖の裏側に押し込んでいるのだ。
「入っていいよー」

「夕飯作った」
「頂きます」
「頂きます」

「ねー、タイの肩に小さい魚の形した骨があるの知ってる？」
「……知ってるけど、彼氏さんに振る話題じゃないと思うよ」
「いや、そういうの聞きたがるかなーと思って」
「なんで？」
「豚肉おいしいよ」

［3］

夜中にふと目が覚めたら、隣にいなかった。
ぼんやりした頭で考えた。なんでいないんだろう。なんでいないんだろう。

どうして、いないんだろう。

きっと実は透明人間なんだ。
ちゃんと透明なときとそうじゃないときの切り替えができるんだけど、寝ていて自律神経が上手く働いていないか、変な夢を見たかして、つい透明になってしまったのだ。
確認するのは簡単だ。手を伸ばして周囲を確認すればいい。透明になっていても、幸せそうな顔で寝ているのが、ちゃんと触感で確認できるはずだ。やってみよう。
……眠い。体が重い。
だから、本当はすぐそこにいるのに確認できない。眠いから。でも大丈夫、ちゃんといる筈。いる筈。寝てる筈。大丈夫。いない筈がない。
いないはずがない。
水の流れる音がした。

「起こした？」
「みたい」
逆に、ちゃんと触れていさえすれば、たとえ透明になったとしてもちゃんと確認できるのである。

［4］午後　／　［5］午後：その2

［4］

胸に、大きい傷跡がある。
「小さい頃病気したんだ」
って、言っている。

「ねえ」
「ん？」
「ほんとはどうなの？」
「え、何が？」
「実は世界征服をたくらむ組織に改造手術を受けたとか」
「……」
「で、何か身に危険が迫るとそこが開いてなんか出てくるとか」
「ぱかって？」
「そうそう」
「何が出てくるの？」
「……手？」
「……食らえー、必殺・千手観音～～～～！　って？」
「むしろシヴァ神」
「あれは手を動かしてる残像だっていう説があるよ」
「じゃあクラゲ」
「うにょうにょうにょ～」
「だめだエロい」
「俺それ萌えない」

「……うちらバカかな？」
「うん」

［5］

「そもそも、なんで俺が人間じゃない事になるの」
「だって」
「だって？」
「まともな人間に好かれるような性格じゃないと思ってるし」
「いやいやいやいや」
「自分が人間じゃないんじゃないかって思うこともあるし」

「人かどうか確認してあげようか」
「いやいい」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8378e/

たぶん人間じゃないと思う

2010年10月10日01時26分発行